

アルミニウムスラッグのトップメーカー、日本圧延工業（本社・滋賀県東近江市、社長・磯部正信氏）は2016年8月、非鉄総合商社川島グループ（本社・静岡県浜松市、社長・川嶋義勝氏）傘下となった。再スタートから3年余。磯部正信社長は「経営姿勢が旧会社の守りから攻めへと大きく変わった。川島グループのモットーが『いまずぶ挑戦』ということもあり、メーカーとして攻めの姿勢で臨んでいる」と話す。磯部社長に同社の経営戦略を聞いた。

（白木毅俊）

——需要動向はどの程度ですか。

「当社はスラグ（合金・純アルミ）、冷間圧延アルミコイル、アルミ板（一般材）、インパクト加工品を生産している。

これらの需要は昨年末までは堅調だったが、今年1～3月から一気に悪化した。アルミ市況も大幅に軟化し、製品の在庫調整が始まった。例えばア

日本圧延工業

のグラーグのアルミスラグのアルト

磯部 正信社長に経営戦略を聞く



——業績は。た形だ」

「19年7月期 業績は売上高が前期比3%減の32億4千万円、営業利益が同41%減の1億2千万円、経常利益

業績予想は。——今期（20年7月期）

「売上高33億円、営業利益2億8千万円、経常利益2億7千万円を見込んでいる」

設備投資は。——スラグ製造工程の一部が小さくなってきている印象だ」

「約2年前のアルミ業界は絶対調だったが、足元はピークアウトしている状況。特に液晶・半導

が同27%減の2億1千万円。スラグ（合金・純アルミ）、冷間圧延アルミ

「30ト炉溶解バーナー・リジエネ化」は19年1月

から稼働している。費用は改造・付帯設備を含め

て約1億円。リジエネ化の6400トだった

別の燃料コストは従来に比べて4割強の削減とな

っている。5月の大型連休時にはスリッターライ

ンにベルトブライドル装

置などを導入した。費用

期後半に消費してしまっ

た。今回はメンテナンス

を毎年行っている。11月

中旬、Eralent社の2人

の技術者に5日間設備を

点検してもらった。今回はメン

テナだけでなく、より安定操業が

可能になるよう、ドライブ監視装置を製造ラ

インに取り付けた。日々のデータは独自のノウハウの蓄積となり、生産面での

大きな改善につながるはずだ」

は約5千万円。品質と生産性10%アップが狙いで、生産能力の底上げが当面の目標。日本圧延の

将来を見据えた時、付加価値が高められる加工品

事業の強化が大事になる。そのためには生産性の効率をさらに改善し、省人化にも注力していく。需要環境は引き続き厳しさが予想されるが、高効率な打ち抜きプレスによるアルミスラグ生産、自社製造のアルミス

インパクト加工など強み生かす

設備投資で生産性10%アップ

ルミスラグは6000系材料としてモーター軸な



スリッターライン

体装置関連を中心に、ア

た。別途、インパクト加

後の燃料コストは従来に